

ロシア外相も「幼稚園の喧嘩」と嘆く

チキンレースを演じる トランプと金正恩

国際ジャーナリスト
泉 洋海

(ホワイトハウス)



「ロケットマン」と揶揄するトランプ氏

遂に「ロケットマン」と揶揄
北朝鮮の核実験やミサイル試射を
巡る米朝の挑発が危うさを増してい
る。

米国のトランプ大統領は自ら批判
していた国連総会での演説で「北朝
鮮を完全破壊する」と宣言。これに
対して、北朝鮮の金正恩委員長は「史
上最高の最強硬対応措置の断行を慎
重に検討する」と、自身の声明を発

表するなど、泥仕合の様相を呈して
いる。

さらに、米中は北朝鮮への金融制
裁を中心とする追加制裁を実行。

「北」が追い詰められて武力攻撃に
踏み出す恐れもある。

要性に迫られたら、「北朝鮮を完全
に破壊するしか選択肢はなくなる」
——。初めて国連総会の一般教書演
説を行なったトランプ氏は、約40分
にわたる演説で、北朝鮮を「下ろ
した」。

金委員長を「ロケットマン」と揶揄

「自らとその体制の自滅への道を突
き進んでいく」と強調した上で、北
朝鮮には「非核化だけが受け入れら
れる未来であると分からせる時だ」
と述べ、核保有国への道は決して認
められないとの姿勢を明確にした。

トランプ氏の過激な言葉やからか
いが、北朝鮮の核やミサイル開発に
加え、武装の言い訳を与え、態度を
さらに硬化させたり、武力攻撃に出
たりする恐れがあるからだ。

一方で、一加盟国に過ぎない米国が、
予算の22%を分担していることに「不
公平な負担だ」と苦情を述べ、「總
ての国指導者が自国を第一に考
える」と同じように、私も常に米国を
第一に考える」と米国第一主義を
正当化するのを忘れない。

同国の最高指導者が自らの名前で
声明を出すのは、祖父、父と三代続
く「驚いた」「北朝鮮を刺激する」
などと批判が集中した。

これらの演説に対しても、国内外
から「驚いた」「北朝鮮を刺激する」
などと批判が集中した。



ティラーソン米国務長官（米国務省）



瀬戸際戦略をさらに推進する金正恩氏

水爆実験が武力行使の口実に
では、「超強硬対応措置」とは何
だろうか。北朝鮮の李容浩（リ・ヨ
ンホ）外相は「太平洋上での史上最
大の水爆実験ではないか」と予測し
てみせた。

く政権でも初めてのことだと言う。
金氏はトランプ氏の「完全破壊」と
いう言葉を捉え、「歴代どの米国の
大統領からも聞いたことのない、前
代未聞の無知で粗暴な強靄ラッパ」
と皮肉った。

金氏の声明全文を辿ると面白い。
国連の舞台に初めて登場した米国の
執権者の演説は、世界の関心事なの
だから、米大統領ともあろう人が、
それまでのよう執務室で、即興で
放言していたのは多少違う、型に
はまつた準備をされた発言をすると
予想していたが、そうではなかつた—
—などと述べている。

この応酬を、ロシアのラブロフ外相
は「幼稚園の喧嘩」と呼び、米朝に
冷静な対応を促した同氏は「熱くな
った頭を冷やし、立ち止まって何
らかの接触を試みる必要性がある」
と述べ、米朝が話し合いで解決を目
指すべきだと主張した。

トランプ氏が「政治の門外漢」や「異端
児」などと言われ嘲笑されていたこ
とまで持ち出し、「一国の武力を握
る最高統帥権者としては不適格で、
火遊びを楽しむならず者」だととき
下ろした。

そして、トランプ氏の「完全崩壊」
発言を、「歴代で最も暴悪な宣戦布
告」と捉え、「史上最高の超強硬対
応措置の断行を慎重に検討する」と
結論づけた。ならず者とならず者と
の言葉遊びのようだ。しかし、双方
とも核やミサイルのボタンを握ってい
るだけに笑えない。

トランプ氏は、北朝鮮と対話の可
能性を探るティラーソン米国務長官
に対し、「小さな口ケットマンと交渉
しようとするなんて時間の無駄だ」
と言う。そして、「我々はなされる
べきことをやるだけだ」と強調した。
一触即発の状況は変わらない。

一方で、米国は金融制裁を中心と
する追加制裁に踏み切った。これま
では、北朝鮮の兵器開発などにつな
がると思られる企業や個人が対象だ
ったが、今回は幅広い分野で北朝鮮
と取引がある企業にまで広げ、金融
制裁も厳しくなる。

また、中国も米国と足並みを揃え
て金融制裁を強化しており、北朝鮮
包囲網はじわりと効果が出て来そ
うだ。



解散総選挙に打って出た安倍首相（首相官邸）

さらに、昨年の米大統領選でトラン

プ氏が「政治の門外漢」や「異端児」などと言われ嘲笑されていたことまで持ち出し、「一国の武力を握る最高統帥権者としては不適格で、火遊びを楽しむならず者」だととき下ろした。

しかし、実際に太平洋上で水爆実験をするのであれば、運搬手段が限られる上、今の北朝鮮の技術力では難しいとの見方も。

さらに、公海の平和利用を定めた国連海洋法条約の違法行為に当たるとの指摘もある。そもそも、水爆実験を実施すれば、全世界を敵に回すだけでなく、米国の軍事攻撃を始め理由にもなるため、必ずしもよい選択肢ではないだろう。

アジア歴訪が11月に予定されていることなどから、10月は北朝鮮の動きはない、とする見立てもある。

だが、10月10日が朝鮮労働党の記念日に当たることから、ミサイル発射を懸念する声もある。

もし、仮にミサイルが飛んで来るよ

うなことになれば、選挙どころではなくなるだろう。その時に、批判は大義なき解散を断行した安倍政権に向かうのか、それとも、不甲斐ない野党に向かうのか。読みにくかった。（10月4日現在）